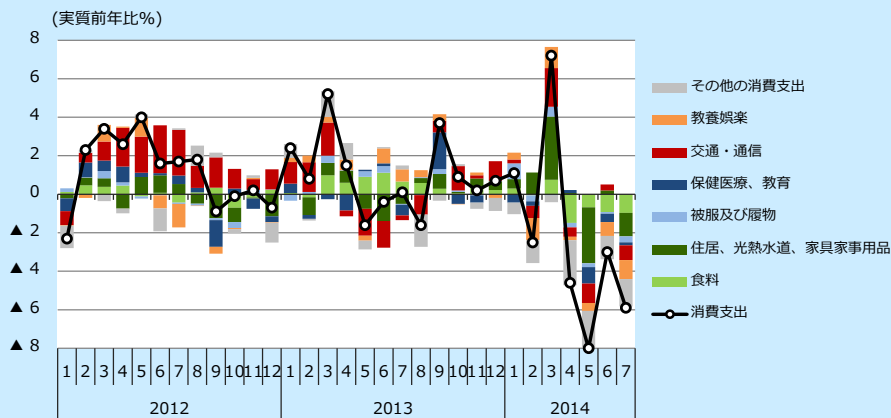


日本：家計調査（2014年7月）

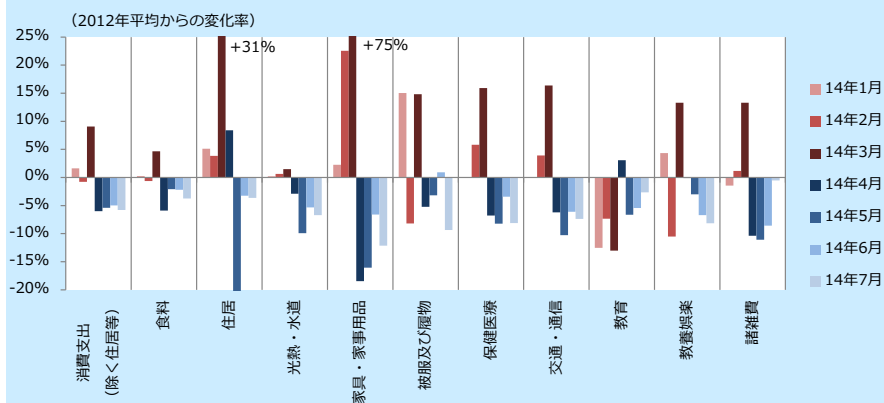
MRI Daily Economic Points
August 29, 2014

図表 家計調査



資料：総務省「家計調査報告（二人以上世帯）」

図表 品目別の実質消費指数



※季節調整値

資料：総務省「家計調査報告（二人以上世帯）」

評価ポイント

2014年7月の結果

- 7月の実質消費支出(二人以上の世帯)は、前年同月比で▲5.9%と4ヶ月連続の減少となった。減少幅は前月の同▲3.0%から再び拡大した。前月比(季節調整値)では▲0.2%と2か月ぶりの減少。
- 特定の品目が足を引っ張ったというよりは、おしなべて6月から減少幅が拡大する結果となった。消費増税後の反動減の影響が耐久財を中心に根強く残っているほか、梅雨明けの遅れや台風上陸など天候不順も消費の下押し要因となったとみられる。
- 天候要因が影響したとみられる品目では冷暖房用器具(実質前年比▲37.8%)、交通(同▲21.8%)、洋服(同▲12.4%)、教養娯楽サービス(同▲10.2%)、飲料(同▲5.4%)、外食(同▲5.4%)などが挙げられる。
- 増税の反動減の影響は、自動車では和らぎつつあるものの、一般家具(実質前年比▲47.1%)、身の回り品(同▲25.4%)、理美容品(同▲10.3%)など駆け込み需要の大きかった品目を中心に依然として残っている。

基調判断と今後の流れ

- 消費は持ち直しの途上にある。消費税増税後の反動は和らぎつつあるが、天候不順の影響もあり、その足取りは鈍い。
- 8月も全国的な天候不順や一部地域での災害発生などもあり、7月と同様に天候要因が消費の下押しとなるであろう。雇用・所得環境の改善や消費マインドの回復を背景に、14年度後半にかけて本来の回復軌道へ復すると見込んでいるが、回復ペースは想定よりも遅れる可能性が高まってきた。